

SSH 野外実習講座「ScienceCamp II」

を実施しました

□実施日 事前指導：令和4年7月18日（月）
実習：令和4年8月19日（金）～22日（月）

□参加生徒 普通科2年 SSH コース9名

□連携機関名 星槎大学 立山カルデラ砂防博物館

□内容

8月19日

星槎大学で教鞭をとられ気象予報士でもあり、自然現象に関する書籍も多く執筆しテレビ出演や監修などもされている気象のスペシャリストの武田先生を迎え、バスにて新潟県のフォッサマグナミュージアムに向かいました。フォッサマグナの断層の境目が実際に見ることができ、日本列島の成り立ちを学ぶことができました。その後糸魚川から注ぐ海岸にてヒスイを探しましたが、残念ながら見つかることはできませんでした。

8月20日

立山カルデラ砂防博物館にて福井先生と合流しました。福井先生は日本における氷河研究の第一人者であり、立山の地形にも深く携わっております。麓から標高が上がるにつれて移り変わる植生を観察しながら自生している樹齢数百年を超える巨大なタテヤマスギを見ました。また火山地形でできた称名滝は圧巻の迫力でした。1900m付近の弥陀ヶ原では溶岩によってできた平らな大地に、豪雪地帯の雪解け水が溜まり湿原となっていました。

8月21日

山岳ガイドの多賀谷氏を迎え、立山の地質や高山植物を研修しながら頂上 3003mを目指しました。一部雪が残っている所もあり、険しい道のりでしたが無事頂上にたどり着き、世界でも南限に位置する日本の氷河を見ながら福井先生の講義を聞く事ができました。夜は満天の星空で、武田先生による講義も楽しかったです。雷鳥にも出会えました！

8月22日

黒部ダムでは地形やダム建設に関わる時代背景を地理教員より講義してもらいました。実物を前にしての講義は、理解も熱量も違いました。



フォッサマグナパークの様子



立山山頂の様子



立山連峰を背にして

□生徒の感想

- ・圧倒的な自然に対して、知識や想像力で考察することを心掛けました。多くの事に興味が持てても良かったです。
- ・地質や気候、植生やそこでの人々の暮らし・文化がすべてつながっていることを感じられた研修でした。また是非行ってみたいと思いました。